

事業評価資料の作成例

助成事業者は年度の途中で中間点検を実施し、事業進捗管理シート及び「利用者アンケート等、事業の効果が分かる資料（任意様式）」を作成して、提出が必要です。事業内容によって評価すべき内容が異なりますが、概ね以下のような内容で評価してください。

1 指標及び達成状況

（例1）高齢者見守りの場合

指標名	単位	従前値		目標値		現状値		達成度	達成見込	備考
			年度		年度		時点			
見守り実施件数	回	N/A	R3	200回	R4	120回	R4.9末	60%	○	大きな事故等が当初予想していたより少なかった。
関係機関への連絡	回	N/A	R3	20回	R4	15回	R4.9末	75%	○	
在宅での事故発見	回	N/A	R3	10回	R4	5回	R4.9末	50%	△	
救急車の呼び出し	回	N/A	R3	2回	R4	0回	R4.9末	0%	×	

（例2）引きこもり者支援の場合

指標名	単位	従前値		目標値		現状値		達成度	達成見込	備考
			年度		年度		時点			
訪問相談件数	回	N/A	R3	100回	R4	40回	R4.9末	40%	×	新規支援者の把握数が予想以上に多く、その分、訪問相談に行けな い状態である。
新規支援者把握数	人	N/A	R3	20人	R4	15人	R4.9末	75%	○	
回復訓練実施回数	回	N/A	R3	20回	R4	10回	R4.9末	50%	△	
回復訓練実施人数	人	N/A	R3	100人	R4	70人	R4.9末	70%	○	

2 アンケート結果（レイアウトは表やグラフ等でも可。）

（例1）居場所づくり等

質問	回答内訳	備考
施設の利用頻度は？	①ほぼ毎日 10%，②週2～3回 20%，③週1回 30%，④月1回 30%	利用者の満足度は比較的に高いが、常連の方達の人数が多く、参加頻度の低い方や新規の方に参加し難い雰囲気があり不満がある。
利用料金は？	①安い 10%，②妥当 60%，③高い 30%	
サービスの満足度	①大変満足 20%，②ほぼ満足 50%，③あまり満足できない 20%，④不満 10%	
改善が必要な事項	料金が高い 5人，スタッフの対応 10人，利用者が固定化されていて参加しにくい・・・	

（例2）相談窓口等

質問	回答内訳	備考
職員の対応は	①とても良い 20%，②良い 30%，③普通 40%，④悪い 10%	解決が難しい課題に関する相談が多く、成果につながらない場合もある。中には弁護士に相談すべき内容もあるが、予算的に難しいため、職員の研修を実施して対応していく。
利用時間	①現状のままでよい60%，②休日も実施して欲しい20%，③夜間も実施して欲しい20%	
問題は解決したか	①解決した 30%，②解決しないが参考になった 50%，③役に立たなかった 20%	
サービスの満足度	①大変満足 20%，②ほぼ満足 50%，③あまり満足できない 20%，④不満 10%	
改善が必要な事項	利用時間 20人，職員の専門性 5人	

3 事業の検証（例）

分野	項目	検証結果
事業計画	当初の事業計画どおりに実施できたか。	当初の事業計画より大幅に遅れてしまっているが、年度末までには概ね達成できる見込み。事業に慣れてくればより効率的に実施できるため、来年度以降の計画を変更する必要はない。
	当初の事業計画に無理はなかったか。	
	必要な見直しや改善が図られたか又は図られる予定か。	
予算執行	当初の予算どおりに執行できたか。	予算の執行が遅れており、年度内に当初の予算額を執行することは難しいため、経費配分の変更について申請をする予定。
	予算執行が滞っていないか。	
	経費の配分等に変更がある場合は、変更承認申請書を提出しているか。	
	今後の予算執行の見込みは適正か。	

スケジュール	当初のスケジュールどおり実施できたか。	当初のスケジュールどおり実施できた。
	当初のスケジュールに無理はなかったか。	
	必要な見直しや改善が図られたか又は図られる予定か。	
事業効果	当初の目的が達成できたか又は達成できる見込みであるか。	当初の目的については概ね達成できる予定であるが、指標の評価やアンケートの結果等から改善が必要な個所が見つかったので、今年度中に改善を図るとともに、来年度以降の計画にも反映していく。
	事業の効果が客観的な指標等で確認できるか。	
	アンケート等で利用者の意向を確認しているか。	
	利用者の意向を反映できるような取組みや改善がされているか。	

※上記は県で実施する事業評価の項目に合わせて作成していますが、必要に応じて適宜、項目の加除をして構いません。

4 今後の改善計画

(1) 改善が必要な事項

休日でないと利用できないという人が一定数いた。

親の帰宅時間が遅い家庭のため、利用時間を延長して欲しいという人が一定数いた。

(2) 改善方法

12月から休日も営業することとした。このため、ボランティアの募集やスタッフのシフトの変更も行った。

夜間の営業については、現状ですぐに実施できる目途がたたないため、引き続き検討していく。

(3) 目標値等

年間利用者数の目標を当初の2千人から3千人に変更する。

(4) 事業計画等の修正

今年度は休日営業に向けて利用者から寄付金を募って運営費の不足分に充てるが、来年度からは利用者負担と助成金で運営できるよう事業計画や予算について可能なプランを検討する。また、5年後までに助成金以外の代替財源を確保するため、収益事業として実施している売店での物品販売を強化していく。